

★しまね映画祭の起ち上げ

しまね映画祭は、1992年秋に開催された「グローバルフォーラム芸術会議しまね」をきっかけに産声を上げました。映画館がどんどん減りはじめ、映画を観る機会が失われていく危機感が背景にありました。県内でなかなか公開されない名作や話題作も含め、何とか県民が観たい作品を届けて行こうと熱い思いを持った官民が一体となって実行委員会を組織。「環境」をテーマに掲げて、県内市町村を上映会場に毎年長期間にわたる全国的にもユニークな映画祭がスタートしました。

参加会場は、第1回の8市町から最高は21市町村23会場(第8回)。各回の観客数(延べ)も第1回が14,148人で24,000人台を記録した回も幾度かあり、鑑賞者総数は30万人を超えました。しかし、近年はDVDや配信などで自宅や好きな所で観られるようになり、鑑賞スタイルの変化に伴って鑑賞者は減り続けており、寂しい限りの状況です。

しまね映画祭に足を運んでいただき、大きなスクリーンで、いい音響で観る醍醐味をぜひ体感してください。そのことが「しまね映画祭」への一番の応援なのです。

当時を知る男 西尾俊也

しまね映画祭の起ち上げ

しまね映画祭は、1992年秋に開催された「グローバルフォーラム芸術会議しまね」をきっかけに産声を上げました。映画館がどんどん減りはじめ、映画を観る機会が失われていく危機感が背景にありました。県内でなかなか公開されない名作や話題作も含め、何とか県民が観たい作品を届けて行こうと熱い思いを持った官民が一体となって実行委員会を組織。

「環境」をテーマに掲げて、県内市町村を上映会場に毎年長期間にわたる全国的にもユニークな映画祭がスタートしました。

参加会場は、第1回の8市町から最高は21市町23会場(第8回)。各回の観客数(延べ)も第1回が14,148人で24,000人台を記録した回も幾度かあり、鑑賞者総数は30万人を超えました。

しかし、近年はDVDや配信などで自宅や好きな所で観られるようになり、鑑賞スタイルの変化に伴って鑑賞者は減り続けており、寂しい限りの状況です。

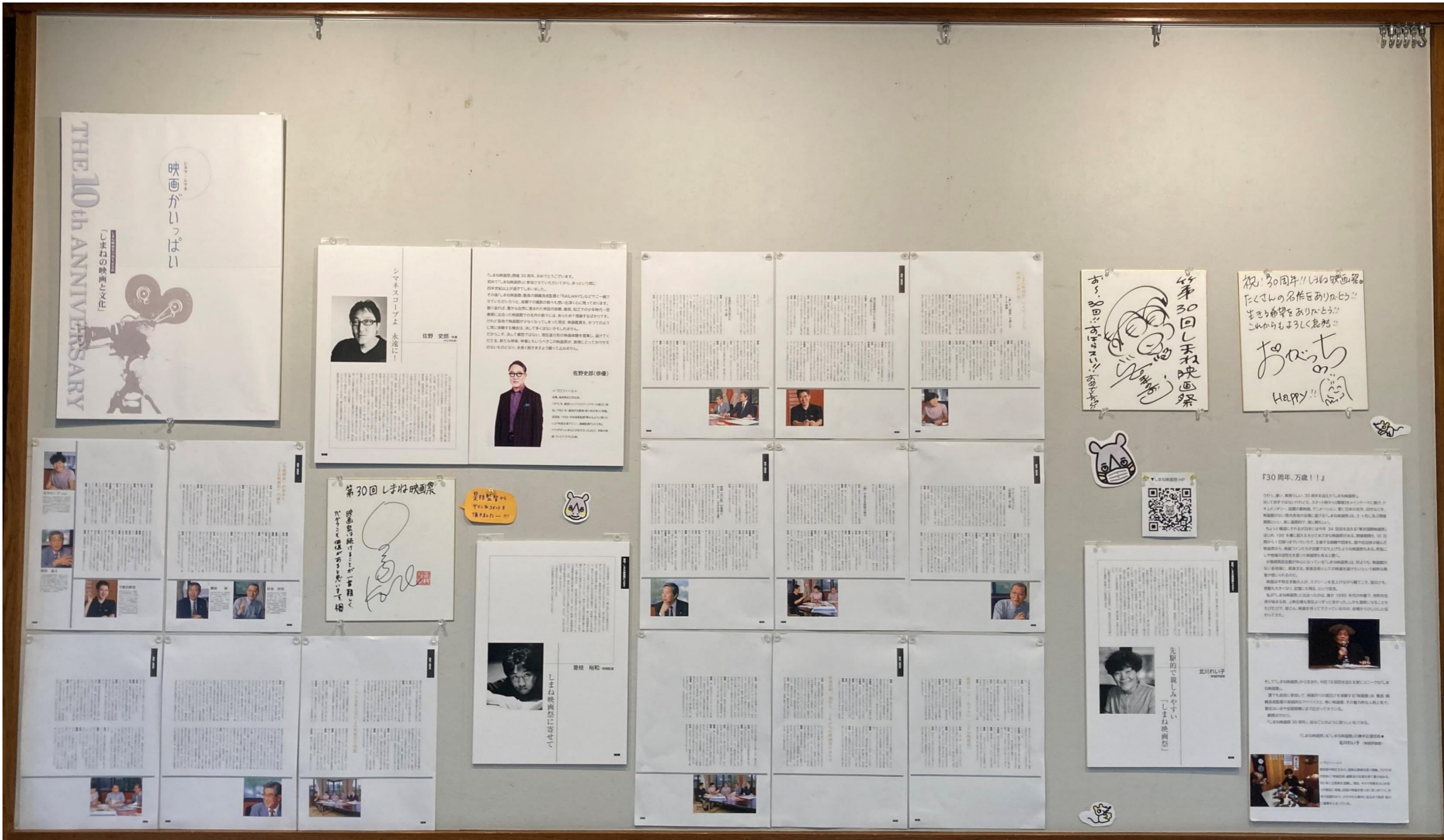
しまね映画祭に足を運んでいただき、大きなスクリーンで、いい音響で観る醍醐味をぜひ体感してください。そのことが「しまね映画祭」への一番の応援なのです。

当時を知る男 西尾俊也

当時の
(おもしろ!?)
エピソード

◇夜中の国道9号走破 複数の会場と同じ作品を上映する場合、問題となるのはフィルムの搬送です。各会場間の日程調整が付かなかった時は大変です。ある年、前日夜に益田会場で上映したフィルムを翌日昼には安来会場が必要になったのです。運送業者では対応できないため、安来のスタッフは夜中に車を走らせ、トンボ返りの島根縦断を強行。事なきを得ました。

◇スクリーンが突然まっ暗に そう、上映中に映写機が故障したのです。30年近く前のこと。会場だった当時の某会館(現在は移転新築)の映写機は古く、フィルムの切り替え(本来は自動)もスクリーンを窓から覗きながらタイミングをみて手動でした。映写室もエアコンが無く、映写機の熱で蒸し風呂状態でしたが、だれが考えたのか氷柱が持ち込まれ、しばらくは映画祭の風物詩?に。故障は応急処置で乗り切りましたが、フィルム上映は忍耐と神業が支えました!?



しまね映画祭10周年記念誌「しまねの映画と文化」より

★島根県文化奨励賞を受賞

しまね映画祭実行委員会は、文化芸術分野で積極的に活動を続け、将来の活躍が期待できる個人・団体に贈られる「平成14年度島根県文化奨励賞」を受賞しました。

平成15(2003)年3月に県庁であった授賞式には実行委メンバー2人が出席。澄田信義知事(当時)から「受賞を機に島根の文化の担い手として活動してほしい」と激励を受けました。表彰状を前に一層の充実を誓いました。

★山陰信販地域文化賞を受賞

平成29(2017)年11月には山陰両県で地域の文化の向上に貢献した団体などに贈られる「第30回山陰信販地域文化賞」を受賞しました。

山陰信販本社(米子市)であった表彰式に出席した実行委スタッフたちは、長年にわたって開催してきた努力が評価された喜びと、今後も頑張ろうと気を引き締めた瞬間でした。



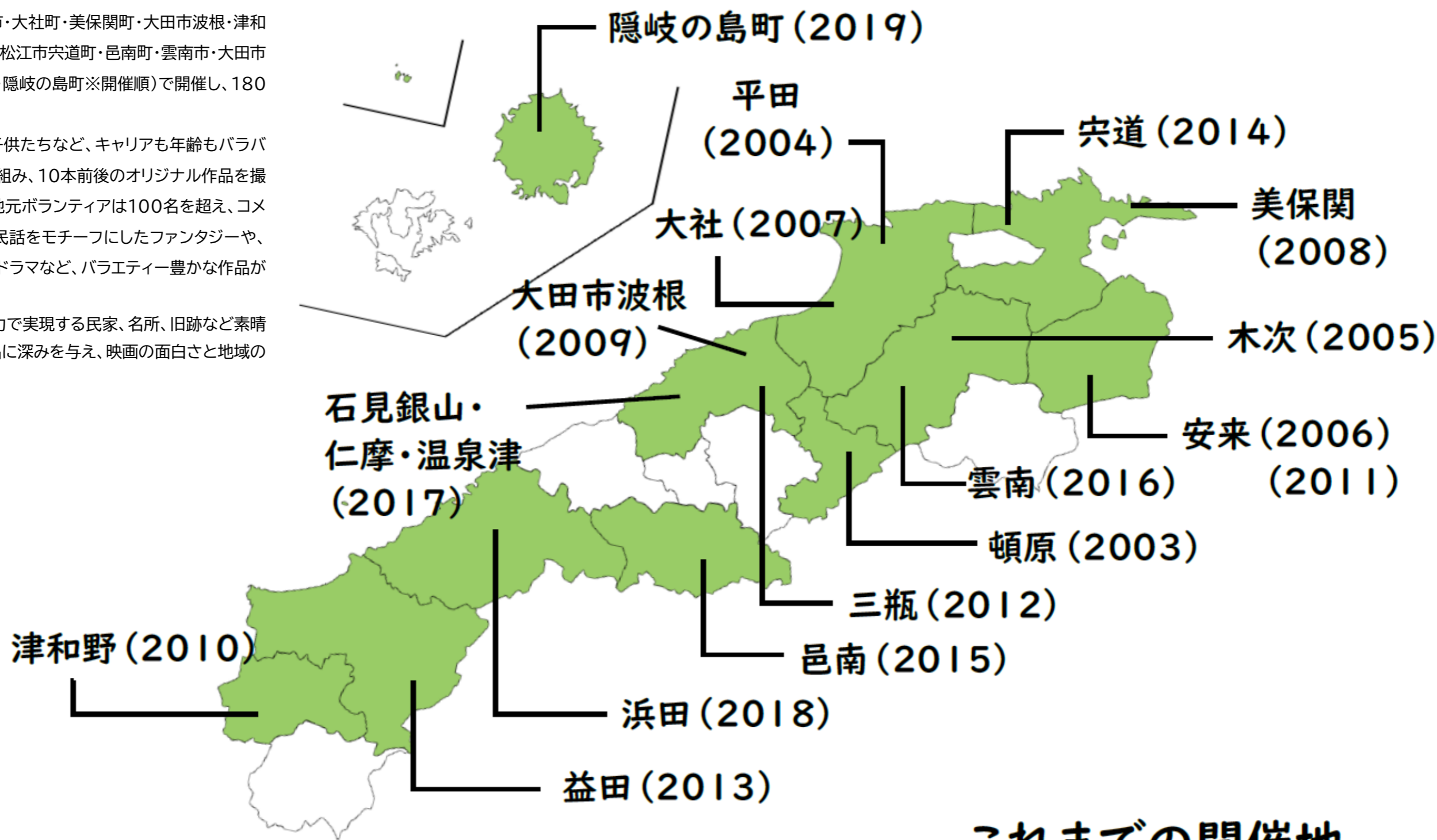
しまね映画塾

「しまね映画祭」が、映画の製作体験を通してもっと映画を知ってもらうことを目的に2003年から開催しているワークショップです。

映画監督・錦織良成塾長のもと、脚本作りや実際に撮影合宿で短編映画を撮影し、編集、上映までを行う充実した内容で、これまでに県内17カ所(頓原町・平田市・木次町・安来市・大社町・美保関町・大田市波根・津和野町・安来市・大田市三瓶・益田市・松江市宍道町・邑南町・雲南市・大田市大森町・仁摩町・温泉津町・浜田市・隠岐の島町※開催順)で開催し、180本を超える作品が生まれました。

社会人・学生・主婦・お年寄り・子供たちなど、キャリアも年齢もバラバラの見知らぬ他人同士がチームを組み、10本前後のオリジナル作品を撮影していきます。参加する塾生や地元ボランティアは100名を超え、コメディや時代劇、SF、その土地の民話をモチーフにしたファンタジーや、地元実在の人物を題材にした感動ドラマなど、バラエティー豊かな作品が次々と生まれています。

島根の美しい風景や、地元の協力で実現する民家、名所、旧跡など素晴らしいロケーションでの撮影も作品に深みを与え、映画の面白さと地域の魅力を発信し続けています。



これまでの開催地

しまね映画塾 製作作品一覧

第1回('03)in頓原	第2回('04)in平田	第3回('05)in木次	第4回('06)in安来
「Tea Break」 「山女」 「笹舟からのメッセージ」 「すいがら」 「そら」 「道草」 「たぬきのたから」 「トンバラナイト」 「黄昏の町で」 「はじまり」 (10作品)	「2人きりになりたい」 「かくれんぼ」 「け、えらくらし」 「洗剤を買いにいっく僕 本を読む君」 「タイトル未定」 「アロエの棘」 「この指先へ」 「ネイルキャンパス」 「痛快・平田飯面！」 「平田の神の縁結び」 「夢のつづき」 (11作品)	「おばあちゃんの玉子焼」 「同窓会」 「キレイナコト」 「黄色い瞳」 「異説八戸」 「てがみ」 「離郷」 「ラムネ」 「遠夢」 「ばあさんはな…」 「やまびこ」 「願い橋」 (12作品)	「金屋子女神恋之道行」 「おじいさんのかざぐるま」 「タクシー」 「うえをむいて」 「冥土in安来」 「心模様」 「シャボン玉ホリデイ」 「さいいるい雨。」 「清水奇譚」 「よわ虫弱之進～富田城跡の仇討ち」 「里山」 「おじいさんのはなし」 「やすぎのオヤジ」 (13作品)
第5回('07)in大社	第6回('08)in美保関	第7回('09)in大田市波根	第8回('10)in津和野
「どえんむすび」 「鶴鷺の森」 「鶴崎山跡での決意」 「弁当ライダー2」 「ひとりひとり」 「目を閉じれば…」 「大社不適切土偶」 「やがて消え行く、それまでに」 「散歩の時間」 「1984年のみさお君」 「聖母サイダー」 「わたしのおじいちゃん」 (12作品)	「えびすサマー」 「関で五分待つ」 「八月のジャンプ」 「海とチョコレート」 「美保だるま」 「手」 「名探偵黒木桃子事件ファイル 断崖絶壁の女」 「初体験」 「バビントン」 「ばらばら」 「タビビトを待つ町」 「かくやの石」 (12作品)	「ぶらんこ」 「ファーム・ハート」 「久手の空」 「いくつになっても」 「安濃郡波根東村発『知られざる漁師達の戦争』」 「潮風に ことばをのせて」 「池の下の帝国」 「追憶の海」 「漁師的な彼女」 (9作品)	「ROCK IN 軽トラ」 「重たい・ご褒美」 「つわぶきの花」 「若葉でもみじ」 「老夫婦」 「God bless you!」 「ザ・埋蔵金」 「剥」 「左鍔屋台」 (9作品)
第9回('11)in安来	第10回('12)in三瓶	第11回('13)in益田	第12回('14)in宍道
「安来に恋して」 「ほくがネクタイをはずした日」 「祐也の夏」 「安来のぞんび」 「お父さんをとらないで」 「願うということ」 「女子会」 「安来三ツ物物語」 「出藍」 「我が家の神様」 (10作品)	「じぞう・こぞう」 「拝啓、祖父ちゃん」 「アグリ」 「ノッティ、旅に出る」 「サヒメル殺人事件」 「ひまわりの花が落ちる頃」 「昼の星、花の星」 「時をつなぐまつ」 「世界最強の動物」 「お見送り」 「赤いレンズ」 「猫屋宇宙旅行社」 (12作品)	「High School Days」 「しゅうがくりようこうへようこそ」 「絆—きずな—」 「橋の途中で」 「波路をこえて」 「約束の守り人」 「Blue Water」 「老人と川」 「神楽な日々」 「我が家に嫁が来た！」 (10作品)	「神様の冒険」 「うたかたの季」 「夏の日の活劇」 「ぼっぴこーんズ」 「荒神サマ」 「奥れ縁」 「手紙」 「刻む」 (8作品)
第13回('15)in邑南	第14回('16)in雲南	第15回('17)in石見銀山・仁摩・温泉津	第16回('18)in浜田
「金助たぬぎ」 「花を植えた人」 「めぐる」 「忌念写真」 「桃源郷の読書会」 「手まりご娘」 「SELF PORTRAITS」 「ハンザケ」 「ココニイルコト」 (9作品)	「ウンナンマン」 「幸せな決断」 「たたらと酒」 「鬼面の涙」 「理由」 「やたら侍」 「ラストレター」 「家族のかたち」 「美女大会」 「5分前から好きでした」 (10作品)	「空飛ぶひまわり」 「シルバーラッシュ」 「明日きみが泣かないように」 「ニマニマンF」 「アイターン」 「昔語り会」 「この地」 「とんがり王国へようこそ」 (8作品)	「ある日、ゆうひパークで…」 「閃光の浜」 「遠くて近い～FRAGILE～」 「光」 「えびすさん」 「何屋打？」 「残したい～幻の広浜鉄道 今福線～」 (7作品)
第17回('19)in隠岐の島町	第18回('20)リモート	第19回('21)in松江&ワールド!?	
「アイラと不機嫌な私」 「崖の下の橋」 「八尾川」 「西日の陽炎」 「インスタントラジオ」 「ごめんなさい」 「島、風渡る」 「スピーカー」 (8作品)	「レシビ」 「君と、僕と」 「GO TO THE FUTURE」 「不毛な会議」 「コロナに灼かれて」 「期日を守れ」 「変わらないもの」 「オラが町の花嫁大作戦」 「おひさまおじいちゃん」 「カミング・ホーム！」 「ハリウッドスターがやって来る!？」 (11作品)	「ものさし侍」 「歌えキネマよ！」 「じいちゃん」 「いくつになっても」 「公衆電話」 「ハトガマメクツペバ」 「石を探す」 「ハリウッドスターの置き土産」 「パパと私と無縁坂」 「終わりよければ全てよし」 「保険」 (11作品)	

～第30回 島根広告大賞 受賞～

(第14回しまね映画祭/2005年)

デザインを制作した谷口印刷の福田さんにコメントを頂きました。

しまね映画祭30周年おめでとうございます。

実行委員会のみなさまをはじめ、映画を愛する方々に支えられてきたからこそ、こんなにも長く続いているのでしょう。開催地は県内各地、上映場所も大小さまざま、ジャンルや新旧を問わない上映作品…しまね映画祭とは映画と人を近くするイベントで、だからこそ30年も続いてきたのだろうと、勝手に思っています！

そして、この「人と映画が近い」をなんとか表現しようと思って生まれたのが2005年のポスターです。最初に決めたことは、人と映画の関係が、ゆるーく、心地よくつながっている感じを伝えようということ。まずは図案を考える会議を行ったのですが、まったくもって良いアイデアが浮かびません。いくらアイデアを出してもなんか違うのです。

そんな中、ふっと誰かが言いました。「飛んじゃう？」それに誰かが続きます。「浮いちゃう？」どこでどうやって撮影するかなどお構いなしに、図案のベースが決まった瞬間でした。

ここからも大変です。なにしろ飛んだり浮かんだりして写真を撮らねばならないのですから。撮影技法、撮影場所、モデル、衣装…お金と時間を自由に使えばよいのですが、そうもいきません(実行委員会さんすみません)。結局「飛んじゃう」はスタジオで、「浮いちゃう」は川で撮影をすることにして、知人にモデルを頼むことになりました。飛んだり浮いたりして欲しいというオファーに、どう思ったんでしょうかねえ。今だ聞けずじまいです。

そして撮影！まずはスタジオでの撮影を終え、別の日に川での撮影に臨みます。場所は奥出雲の名勝・鬼の舌震。奇岩や巨岩が並ぶ一帯の一番川下、清らかな水がゆるやかに流れる部分が今回の撮影ポイントです。

事前のロケハンや撮影許可申請など、事前準備はバッチリ。段取りどおり、まずは建設現場で使う足場を組み始めます。ん、足場？そうです、どうしても必要なカメラアングルが取れなかったのです。デザイナーもカメラマンもモデルも私も汗だくになって足場を組み終え、なぜかモデルを兼務する私を先頭に、モデルたちは川にズブズブ入っていきます。

「冷たい」「気持ちいい」などと言いながら、みんな仰向けに浮かぼうとするのですが、なかなかうまくいきません。

知ってます？川の流れのなかで水平に浮かび続けるって難しいんですよ！

ようやくうまく浮かべるようになって、カメラマンがシャッターを切ろうとするも、今度はモデルがバラバラに流れていきます。

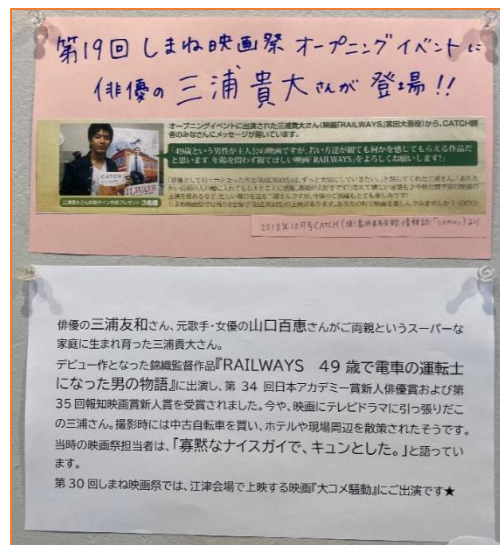
知ってます？川の流れのなかで浮かぶと、割と四方八方に流れていくんですよ！

何カットも撮影を重ねていくうちに、汗だくになっていた体はすっかり冷えきり、想定していなかった寒さにより撮影を切り上げました。よい一枚が撮れていることを祈るのみです。こうして撮影した写真に乗せたキャッチコピーは「人と映画のたゆたい」。たゆたいとはゆるゆると揺れ動く様子のこと。写真を見ながら自然と出てきた言葉です。

人と映画が、ゆるーく、心地よくつながっている感じが、みなさんにちゃんと届いたのか、今でも気になります。届いた人もそうでない人も、しっかり届いた人もそうでない人も、伝わり方はさまざまでしょう。でもそれでいいのでしょう。きっと映画と人のつながりもさまざまでしょうから。

谷口印刷 福田衆一





第25回しまね映画祭～大入り！の斐川会場
 斐川会場は、毎年秋の文化祭に併せ「一作品ずつ一回限り」の上映で参加していますが、この年は事前の問合せも桁違いに多く、当日の動員数も450人に迫る当会場の最高を記録！前日まで前売り券が次々と出ていたので、客席が足りないかも…と贅沢な心配もするくらい、作品の力を大きく感じる映画祭でした。(夜、イスを皆で手作業で並べました…)「しまね映画祭」期間の後半での上映ということもあり、2回目(中には3回目も!)というリピーターさんや、友人・知人の勧めで上映会場を探して来られた方が多かったのが印象に残っています。



FROGMAN 着せろし!
 「しまねの道徳くん」
 映画祭オリジナルTシャツ
 しまね映画祭 20周年を記念して、世界中から送られてきたTシャツをデザインして制作しました。しまねの道徳くんは、映画祭のシンボルキャラクターです。着せろし!しまねの道徳くんを身につけて、映画祭を楽しみましょう。

しまね映画祭の歴史は、1977年に始まりました。20周年を記念して、さまざまな企画が実施されています。今年も、映画祭の歴史を振り返り、未来を展望する機会を設けています。ぜひ、ご来場ください。

第19回しまね映画祭 オープニングイベント!
 (俳優) 三浦貴大が 登場!!
 俳優の三浦貴大さん、元歌手・女優の山口百恵さんが両親というスーパーな家庭に生まれ育った三浦貴大さん。デビュー作となった映画監督作品『RAILWAYS 49歳で電車の運転士になった男の物語』に出演し、第34回日本アカデミー賞新人俳優賞および第35回報知映画賞新人賞を受賞されました。今や、映画にテレビドラマに引っ張りだこの三浦さん。撮影時には中古自転車を買ひ、ホテルや現場周辺を散策されたそうです。当時の映画祭担当者は、「寡黙なナイスガイで、キュンとした。」と語っています。第30回しまね映画祭では、江津会場でも上映する映画『大コメ騒動』にご出演です★

「きみにとってのふるさは?」
 夕陽が沈む空の下、心の中を駆け巡る想いが、言葉にできない。あふれる想いは、今、ここに。きみにとってのふるさは?」

第25回しまね映画祭 大入り!の斐川会場
 斐川会場は、毎年秋の文化祭に併せ「一作品ずつ一回限り」の上映で参加していますが、この年は事前の問合せも桁違いに多く、当日の動員数も450人に迫る当会場の最高を記録!前日まで前売り券が次々と出ていたので、客席が足りないかも…と贅沢な心配もするくらい、作品の力を大きく感じる映画祭でした。(夜、イスを皆で手作業で並べました…)「しまね映画祭」期間の後半での上映ということもあり、2回目(中には3回目も!)というリピーターさんや、友人・知人の勧めで上映会場を探して来られた方が多かったのが印象に残っています。

第20回しまね映画祭～担当者の声～

しまね映画祭の季節になると上映ラインアップにマーカーを引いて、どの上映会に行くか想像をめぐらすのが楽しみでした。そんな私とその映画祭の事務局の一員から担当となったのが20周年という節目の年。映画と地域のことを考えられる時間を過ごさせていただきました。
 しまね映画祭は、毎年「環境」というテーマでテーマ映画を設定し、ほぼ全会場で上映しその想いを共有してきました。20周年のテーマ映画は気候変動により沈没の恐れがある島々に暮らす人々の生活を記録した『ビューティフル・アイランズ』。「何かがなくなる前に、そこでどんな人が暮らしていたのか、どんな笑顔があったのかを伝えたい」という海南友子監督が映したツバル、ベルリン、アラスカ・シシマレフ島の風景は、その年の3月に起こった東北大震災を経験した私達にとって身に迫るものでした。スペシャルトーク後もロビーで監督とお客様とが話が尽きない様子だったのが印象に残っています。そして、20年の間に上映した954本の中から映画評論家の北川れい子さん、当時の映画祭企画委員長の杉谷むね男さんにより46本に厳選したことから、もう一度スクリーンで見たい映画を大募集しました。1位に輝いたのはジェーン・カンピオン監督「ピアノ・レッスン」!息をのむほどの映像美、愛と憎しみのドロドロ…、マイケル・ナイマンの印象的なピアノ曲の旋律を記憶に残しておられる方、初めて観る方と共に濃密な上映会となりました。あれから、なんと10年!映画をめぐめる環境は随分変わりましたが、やはり大きなスクリーンで、大音響に身を埋め、なかなか手離せないスマホも置いてその映画に没入する時間は、人間らしい感覚を取り戻すことができるかけがえのない時間かもしれません。これからも地域のみなさんと映画を観て笑って泣いてという時間を一緒に過ごせるように。

第26回しまね映画祭
「CINEMA&LIVE コトリンゴのすずさんとハナウタライブ」

第26回のテーマ映画『この世界の片隅に』の音楽を手掛けたコトリンゴさん出演のスペシャルイベント「CINEMA&LIVE コトリンゴのすずさんとハナウタライブ」。会場となった木次町のチェリヴァホールをすぐ隣を流れる斐伊川沿いの桜並木はお花見スポットとしても有名ですが、実はコトリンゴさん元々島根とご縁があり、ステージ MC で子どもの頃に木次にお花見に来たお話をいただき、みんなビックリ!上映の余韻が残る中でのスペシャルライブは、ほんわかと温かい雰囲気にもまれて、幸せな時間となりました。



しまね映画祭 年表

1992

しまね映画祭 スタート!

テーマ「環境」県内各市町で開催
 テーマ映画「四方十川」木通えん太「サスケ」
 ゲスト 豊地日出夫、清川虹子、千葉茂樹、石田勝子

1993

テーマ「環境」県内各市町で開催
 テーマ映画「許されざる者」ラスト・オブ・ア・モヒカン「乳御村の工」
 ゲスト 松林宗恵、財津一郎、香川京子、佐野史郎、池田敏春

1994

テーマ「愛」環境県内13市町で開催
 テーマ映画「さしほわが愛」ガファン・ジョニー
 ゲスト 司馬子星田里子、財津一郎、橋本以蔵、廣木隆一、野村祐人

1995

テーマ「平和環境」県内50市町で開催
 テーマ映画「地球交響曲第二」
 ゲスト 高島忠夫、松林宗恵、藤田正浩、高橋英樹、東原三郎、栗木原毅、水野靖郎

1996

テーマ「環境共生」県内18市町で開催
 テーマ映画「絵の中のぼくの村」
 ゲスト 水野靖郎、星枝裕和

1997

テーマ「環境家族」県内18市町で開催
 テーマ映画「地球交響曲 第三」
 ゲスト 北川れい子、司馬子星、市川幸

1998

テーマ「環境」開港地「三浦」県内22市町で開催
 テーマ映画「開の未来」
 ゲスト 仙頭真美、佐藤真由美

1999

テーマ「環境」県内23市町で開催
 テーマ映画「SAFE」ひろし君は空がすき「長谷悠々」
 ゲスト 長谷裕和、佐野史郎、山崎幸、奥寺佐渡子、北川れい子、辻井啓尚、山田アキラ、松林宗恵

2000

テーマ「環境」県内23市町で開催
 テーマ映画「フレイク」ハルクの世界(6作目)
 ゲスト 真野きりこ、白下元季、錦織良成、宮村優子、Oriente

2001

テーマ「環境」県内20市町で開催
 テーマ映画「キョロ」ハムオオキンの鹿
 ゲスト 北川れい子、高島忠夫、藤田正浩、大矢野充彦、高田英郎、錦織良成、中村麻美、濱山玄子、山田アキラ

2002

テーマ「環境」県内19市町で開催
 テーマ映画「おの学校」老人の心
 ゲスト 瓜生幸久、若原日出男、錦織良成、奥村公延、佐々部清、神山征二郎、北川れい子

2003

テーマ「環境」県内19市町で開催
 テーマ映画「おの学校」おのの学校
 ゲスト 北川れい子、中村麻美、錦織良成、植山志志、小野リョウ、WATARIDORI

2004

テーマ「環境」県内19市町で開催
 テーマ映画「美しい夏キリ」
 ゲスト 錦織良成、中村麻美、若原日出男、北川れい子、濱山玄子、松林宗恵、横山玄子、神山征二郎、山田アキラ、若原日出男、若原秀一、中野俊一

2005

第30回 島根県大賞 受賞
 テーマ「環境」県内13市町で開催
 テーマ映画「村の字真昼」火火
 ゲスト 錦織良成、山下アキラ、高橋伸明、角松敏生、濱山玄子、北川れい子、山口直子、高橋伸明、角松敏生

第15回

2006

テーマ「環境」県内12市町で開催
 テーマ映画「風も空も飛べ」
 ゲスト 黄川田将也、片岡未由美、錦織良成、太田嘉久男、椎川忍、北川れい子、関口勇哉

2007

テーマ「環境」県内15市町で開催
 テーマ映画「不都合な真実」
 ゲスト 長谷川初範、錦織良成、アドトニーロ、坪田正、坪田楊子、中江裕司、青山草太、北川れい子、関口勇哉

2008

テーマ「環境」県内12市町で開催
 テーマ映画「アース・earth」
 ゲスト 錦織良成、北川れい子、関口勇哉

2009

テーマ「環境」県内10市町12会場で開催
 テーマ映画「ハオハブの記憶」
 ゲスト 本橋成一、錦織良成、北川れい子、関口勇哉

2010

テーマ「環境」県内10市町13会場で開催
 テーマ映画「オーシャン」
 ゲスト 錦織良成、三浦貴大、北川れい子、橋本光恵、LILCO

2011

テーマ「環境」県内10市町12会場で開催
 テーマ映画「エニヤフル」マイアムズ
 ゲスト 海南友子、錦織良成、小泉凡、藤岡大祐、北川れい子

2012

テーマ「環境」県内8市町12会場で開催
 テーマ映画「つぎを山を走る百年物語」エンディング
 ゲスト 鳥越俊太郎、錦織良成、青柳翔、北川れい子、白下元季

2013

テーマ「環境」県内10市町12会場で開催
 テーマ映画「おおかみ」もの語り
 ゲスト 奥華子、小山薫堂、山崎アツシ、声優小籠、錦織良成、北川れい子

2014

テーマ「環境」県内10市町12会場で開催
 テーマ映画「世界の果ての逢字」
 ゲスト 錦織良成、青柳翔、甲本雅裕、長岡成貴、FROGMAN、結城豊弘、北川れい子、白下元季

2015

テーマ「環境」県内9市町12会場で開催
 テーマ映画「みんなの学校」
 ゲスト 真鍋俊水、錦織良成、KIN、北川れい子、白下元季

2016

テーマ「環境」県内9市町11会場で開催
 テーマ映画「わたりの物語」
 ゲスト 佐々木幸、錦織良成、小林直己、北川れい子、白下元季

2017

テーマ「環境」県内10市町12会場で開催
 テーマ映画「この世界の片隅に」
 ゲスト トリノ、錦織良成、北川れい子、白下元季

2018

テーマ「環境」県内11市町14会場で開催
 テーマ映画「いたたまらずさあつへい」(あつへい)あつへい
 ゲスト 樋口幸人、錦織良成、北川れい子、白下元季

2019

テーマ「環境」県内11市町14会場で開催
 テーマ映画「花のあざむき」ムウはあざむきのあつへい
 ゲスト 錦織良成、中本雅裕、戸田聖也、北川れい子、白下元季、(1)モト、伊藤純、赤坂肇、高橋伸明

2020

テーマ「環境」県内11市町14会場で開催
 テーマ映画「地球交響曲 第4番」
 ゲスト 北川れい子

2021

テーマ「環境」県内11市町14会場で開催
 テーマ映画「地球交響曲 第4番」
 ゲスト 北川れい子

不慮に命を
おろす
おれい子



祝 第30回 しまね映画祭
 地球交響曲 第4番
 北川れい子 V.P.リ
 2021.9.11
 2021.9.11
 2021.9.11

